

論が交わされ、各セッションから優秀演題11例を表彰しております。

最後に、本学術集会にご登壇ならびにご司会いただいた皆様、寝食を忘れて準備いただいた市立福知山市民病院職員の皆様に深甚なる謝意を表します。

## 第18回鳥取支部学術集会

学術集会会長：鳥取県立中央病院院長 廣岡保明

第18回鳥取支部学術集会は「働き方改革～タスクシフトとチーム医療～」をテーマに2022年9月3日(土)の開催準備をすすめてきました。2020年に当院が当番世話人の際はコロナ禍で中止とした経緯があり直前まで開催形式に悩みましたが、当地域の関係者が参集して意見交換をしたい思いから原則現地開催、できない場合は予算と運営リスクからHybrid開催でなくWeb開催で計画し、最終的には名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長 白鳥義宗教授に「医療DXとReal World Dataが健康・医療分野をかえるか？」というご講演を収録し9月30日までWeb限定公開、シンポジウムと一般演題はWeb誌上発表という形で開催しました。シンポジウム4題、一般演題38題の発表で各施設の取り組みと問題点を共有することができました。ご支援ご協力賜りました関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。

## 第17回広島支部学術集会

学術集会会長：広島赤十字・原爆病院院長 古川善也

広島県支部では、2022年9月8日(木)に第17回学術集会をZoomによるオンライン・セミナー形式で開催しました。当日は196名の参加を頂きました。今回は、「医師の働き方改革について」をテーマに、以下の4名の方からご講演を頂きました。

まず広島国際大学林行成研究室より、広島県内11病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査の報告を行いました。次に、大規模病院における勤務時間管理の取り組みとして、下瀬省二氏(呉医療センター・中国がんセンター病院病院長)にご講演頂きました。続いて、中規模病院の視点から医師事務作業補助者によるタスクシェアの取り組みについて、阿部博嘉氏(広島記念病院情報室室長)にご講演頂きました。最後に、地域病院での視点から中山間地域での病院における医師の働き方改革について、平林直樹氏(安芸太田町病院事業管理者)にご講演頂きました。

開催にあたってご協力くださった関係各位の皆様には心より感謝申し上げます、開催の報告とさせていただきます。

## 第12回新潟県支部学術集会

学術集会会長：日本歯科大学新潟生命歯学部教授 田中 彰

2022年9月10日(土)に第12回新潟県支部学術集会を開催いたしました。昨年は完全Web開催となったため、今年はハイブリッド形式(現地&Web)による開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症第7波がピークを迎え、今年もやむなく完全Web開催となりました。

今回はテーマを「改めて問うチーム医療」とし、シンポジウムの基調講演で、本学会副理事長(東京医療保健大学副学長)坂本すが先生からご講演いただき、県内5施設から事例報告を行いました。新型コロナウイルス感染症、超高齢化社会、地域包括ケア、地域医療構想など様々な難題が山積する中で、新潟における多職種によるチーム医療を改めて振り返る場になったと思います。一般演題は、各施設の取り組みについて幅広い内容で8演題のご発表をいただきました。

115名のご参加をいただき盛会のうちに終わることができました。

本学術集会開催にあたり、ご支援ご協力いただきました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

## 第14回大阪支部学術集会

学術集会会長：西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院

病院長 上田祐二

当初2022年2月26日(土)に、学術集会テーマ「地域密着大阪型医療～2040年への路～」の下開催予定でしたが、コロナ禍の影響で半年の延期とし同年9月10日(土)に大阪国際交流センターで開催を予定しておりました(一般口演応募数120題)。しかし、会期直近にコロナ第7波のピークを迎え、大阪府では連日2万人を超える新規感染者数が報告されると共に、多くの医療機関でクラスター発生、職員の重なる感染等最も逼迫した状況に陥りました。よって苦渋の判断でしたが現地開催を断念し、また諸般の事情もあり誌面開催という形を取らせて頂きました。

開催方式の変更を学術集会HP上で広報するとともに、演題応募して頂いた会員諸氏には、抄録集への発表要旨の掲載をもってその発表が行われたことを認め、業績履歴として有効となりますことを通知致しました(証明書の発行)。

このような形になりましたことを大変残念に思い、会員諸氏にお詫び申し上げますと共に、開催に向けてご尽力、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。